校長会報

第146号

宇都宮市立中央小学校
栃木県小学校長会事務局

発行責任者
丸山周二

印刷所
(有)正栄社印刷所

主張

コロナ禍と向き合う中で

栃木県小学校長会副会長
隅内　宏

二〇二〇年二月、新型コロナウイルス感染症への対応が学校経営上の最優先課題となって以来、職員とともに未曽有の事態に向き合い続けてきた。校内で知恵と力を出し合い、市教育委員会や市校長会等で協議や情報交換を積み重ね、保護者や学校運営協議会の理解と協力に支えられながらの毎日は、どこの学校でも同じであったことだろう。

その間、常に思いを巡らしていたことの一つは、「児童の健康・安全の確保」と「学校ならではの教育活動」の両立である。日々の感染予防対策をどう講じるかは、文科省や県・市教委から様々なガイドライン・マニュアルが示され、それをどう具体的に実践するか、全職員で必死に知恵を絞ってきたのだが、運動会や修学旅行、遠足などの学校行事、水泳の授業や校外学習、授業参観・懇談会や個人面談などを（感染予防と両立させながら）どう実施するかは、校長の誰もが頭を悩ませたことと思う。市で同一歩調がとれるものもあったが、感染状況が日々刻々と変化する中、学校規模や立地状況等を踏まえ、中止や延期、規模縮小、分散開催、保護者参加の制限等、学校裁量で判断しなければならないことも多かった。おおむね一か月前には実施の方向性を児童・保護者に示さなければならず、祈るような思いで校内の健康観察状況、県の警戒度発表や感染者数の変動、専門家の予測を注視する毎日が続いた。やむを得ず延期や変更を決断しなければならない事も一度ならずあった。

そうした日々はこれからもしばらくは続くのだろうが、今、改めて感じているのは、「最適解」と「説明」の大切さだ。全ての人の賛同を得ることは不可能だが、ある程度の納得・許容を得られる「最適解を見つける」こと、そして、その根拠や判断する基準などをなるべく具体的に示し、「丁寧に説明する」ことを厭わない努力を続ける限り、保護者や地域は学校を支えてくださる。どちらも当たり前のことなのだが、コロナ禍と向き合う日々の中で、その重要性を痛感している。

（下野市立国分寺東小学校）

主張

みんながしあわせな学校を

栃木県小学校長会副会長
山口　勉

新型コロナウイルス感染症対策に、官民が一体となって取り組んでいる毎日。その一環でＧＩＧＡスクール構想が一気に進み、タブレット端末を活用した指導の推進が図られています。

ここで、コロナ禍においてＧＩＧＡスクール構想の件のように、ピンチがチャンスへと変わったものについて考えてみたいと思います。

例年、前年踏襲となりがちだった行事については、緊急性をもって精選したり、時宜にかなった新たなものを創造したりして対応しています。そのことが、学校経営上の重要課題の一つである「教職員の働き方改革」の推進にも一役買っています。働き方改革が進めば、教職員の多忙感は薄れ、職務への充実感や幸福感が増すものと思われます。

では、人が充実感や幸福感があると感じるには何が必要なのでしょうか。

昨今の脳科学分野の研究により、「しあわせホルモン」と言われるホルモンが関係していることが分かっています。このホルモンの分泌を促すには、①規則正しい生活習慣　②人をほめる　③親切な行動　④会話やスキンシップ　⑤適度な運動　⑥読書や体験を通しての感動　⑦初めての事へのチャレンジ（料理・学習・旅行等）などが良いということも解明されています。ここに挙げた分泌を促す手立てを意識して教育課程の見直しを行い、指導・支援に当たれば、児童も教師もしあわせな気持ちになり、学校全体がしあわせという感情に満ちあふれるのではないでしょうか。

また、学校のみならず、家庭や地域の方々と連携して取り組めば、より一層の効果が期待できます。前年踏襲見直しの好機を得た今、不易と流行を見極めながら、「しあわせホルモン」の分泌を促す視点をもって実践することが、よりよい学校経営を目指す上で、必要なものの一つとなるのではないでしょうか。

（栃木市立大宮北小学校）

栃木県小学校長会中央研究大会

大会主題「自ら未来を創造し　ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す学校経営の推進」

研修部長　髙橋　司

一　はじめに

令和三年度の中央研究大会は六月十八日（金）、栃木県総合教育センターで開催された。同日に予定されていた第七十三回関東甲信越地区小学校長研究協議会栃木大会が誌面発表となり、県内提案者の発表を県校長会内で行う研修会となった。

二　会場

大講義室、研修室ＡＢ四〇八研修室、四〇九研修室の四会場に、午前の部・午後の部に分散して、研究協議を行った。

三　開催内容

○会長あいさつ

丸山 周二会長

○発表

各会場三～四の発表を割り当て、各会場において係により進行を行った。

四　研究発表

【午前の部】

◇大講義室

○発表一

「教職員の学校運営への参画意識を高める工夫―分離新設を見据えた取組を通して―」

宇都宮市立西原小学校　校長　生田 敦 先生

○発表二

「未来社会を拓いていくための学力を育む教育課程の工夫―教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を図る教育課程の工夫・改善―」

芳賀町立芳賀北小学校　校長　小堀 隆 先生

○発表三

「豊かな心を育てる道徳教育の推進―学校のカリキュラム・マネジメント、組織力、校長のリーダーシップを生かして―」

鹿沼市立みどりが丘小学校　校長　江口 秀彦 先生

○発表四

「学校安全―栃木市の取組―子どもの安全を確保し、自ら判断し行動する子どもを育てる学校安全の取組―」

栃木市立合戦場小学校　校長　庄司 秀樹 先生

◇研修室ＡＢ

○発表一

「学校経営ビジョンの実現を目指した効果的な組織マネジメントの工夫―教職員の意欲を高めるための、チームの組織化と自己の振り返り―」

日光市立大室小学校　校長　武田 昌佳 先生

○発表二

「キャリアステージごとの資質向上に向けた研修の推進」

大田原市立佐良土小学校　校長　江連 悦子 先生

○発表三

「社会環境や自然環境についての課題意識や実践力を高め、持続可能な社会を築く担い手を育む環境教育の推進」

宇都宮市立瑞穂野北小学校　校長　加藤 隆男 先生

【午後の部】

◇大講義室

○発表一

「教職員の資質・能力の向上を目指した校内研究・研修における校長の役割―校長のリーダーシップの下、教職員の資質・能力の向上を図る校内研修や体制の充実―」

下野市立薬師寺小学校　校長　海老原 忠 先生

○発表二

「組織の一員として人間性や指導力を高めることのできる若手人材の育成―若手教職員の育成に校長としてどう関わるか―」

小山市立小山城南小学校　校長　小松原 貴子 先生

○発表三

「家庭や関係機関との連携による特別支援教育体制の構築と充実」

那須塩原市立関谷小学校　校長　山本 幸子 先生

○発表四

「国際化の時代を担う人材の育成を見据えた国際理解教育と英語教育の実践と、評価のあり方」

佐野市立田沼小学校　校長　立川 公重 先生

◇四〇八研修室

○発表一
「自他のよさを認め合い、思いや願いを大切にできる子どもの育成―一人一人にとって居場所のある学校・学級づくりを目指して―」
野木町立新橋小学校
校長　星 育夫 先生

○発表二
「持続可能な学校組織の構築に向けて―ミドルリーダーの育成を中心に―」
宇都宮市立瑞穂野南小学校
校長　神山 直樹 先生

○発表三
「いじめや不登校に対応できる校内体制の整備―新型コロナ感染症による臨時休校に対応した不登校対策の取組の推進―」
矢板市立東小学校
校長　佐藤 寿 先生

◇四〇九研修室

○発表一
「学校づくり・人づくりを確かにする学校評価の工夫―保護者や地域住民の学校理解や学校運営参画を促進するための学校評価―」
栃木市立栃木第五小学校
校長　吉田 康男 先生

○発表二
「健全育成のための家庭・地域・関係機関との連携―地域とともにある学校づくりを目指して―」
上三川町立本郷小学校
校長　佐藤 秀彦 先生

○発表三
「未来社会を見据えながら、情報社会を主体的に生きる子どもを育む情報教育の推進」
那珂川町立馬頭小学校
校長　岡安 正弘 先生

◇学習室ＡＢ

○発表一
「新しい時代に必要となる資質・能力を育む教育の推進―地域の教育資源を生かした交流学習の工夫・改善を通して―」
宇都宮市立豊郷南小学校
校長　堀場 幸伸 先生

○発表二
「効果的な教育活動を行うための学校の働き方改善」
那須町立東陽小学校
校長　幡野 勇次 先生

○発表三
「学校力を高め、新たな知を生かし豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営―学校教育の『横』と『縦』への広がりを見据えた学校経営の在り方―」
足利市立梁田小学校
校長　岡部 陽一 先生

他県も含め、全発表用プレゼンテーションを動画にして配付しました。

栃の葉

栃木県教育委員会

学習指導要領の着実な実施に向けて

二〇三〇年の社会と子供たちの未来を見据え、平成二十九年に改訂された学習指導要領が、小学校では令和二年度から全面実施されました。一方で、令和二年度は、新型コロナウイルス感染症により、全国一斉臨時休業からのスタートを余儀なくされました。新型コロナウイルス感染症については長期的な対応が見込まれるところですが、引き続き感染症対策を講じつつ、学校教育ならではの学びを大切にしながら教育活動を進め、子供たちの学びを最大限に保障することができるよう御指導よろしくお願いいたします。

県教育委員会では、学習指導要領の着実な実施に向け、主に次のような取組を行っております。

まず、長年発行している「現職教育資料」では、学習指導要領や小学校プログラミング教育についてシリーズ化し、先生方が理解を深められるよう、様々な視点から解説しております。

また、令和二年度には、指導及び評価計画の作成や日々の授業実践等に役立ていただけるよう、「新学習指導要領に基づく指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」を作成し各学校に配布しました。

さらに、各学校における教育課程の適切な実施に資するよう、すべての教員を対象に今年度から令和七年度までの五年間で教育課程研究集会を実施いたします。

令和三年一月には、中央教育審議会において『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」が取りまとめられました。総論において、新しい時代に求められる資質・能力を育成するためには、学習指導要領の着実な実施が重要であり、学校教育を支える基盤的なツールとして、ＩＣＴの活用が必要であることが述べられています。今後とも、学校教育目標を踏まえ、組織的な取組の充実に向けて御尽力くださいますようお願いいたします。

地区だより

〔宇都宮地区〕

本地区では、本年度開催の「第七十三回関東甲信越小学校長研究協議会栃木大会（関ブロ大会）」でのテーマに準じて、十二の班に分かれて令和元年度より研修を重ねてきた。大会は誌上発表となったが、本市の四つの班の提案は、県中央研究大会で発表した。それ以外の八班は、例年どおり研究を進め、二月に班別研修の集大成として研究発表を予定している。

また、十一月には、宇都宮と上三川の共催で研修を行い、文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室長 石田有記様から「令和の新しい日本型学校教育の構築へ向けた校長のリーダーシップへの期待」の講話をいただいた。

〔上三川地区〕

本地区では「ＩＣＴを活用した教育活動と働き方改革の推進」を研究主題として年六回の研修会を実施し、ＩＣＴ教育の推進とＩＣＴによる業務改善等について情報交換しながら、研究を進めてきた。

十月には、栃木県教育委員会事務局総務課ＩＣＴ教育推進担当副主幹 豊田正人様を講師としてお招きし、「ＧＩＧＡスクールに向けた管理職の関わり」と題して、御講話いただいた。改めて校長としての役割を確認するとともに、校内はもとより、町校長会として各校の技術をオープンにし、シェアすることで町全体を高め合うことを確認できた有意義な研修会となった。

〔上都賀地区〕

本地区では、研究主題を県の基本目標と同一とし「自ら未来を創造し、ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す学校経営の推進」と設定し、鹿沼市と日光市の二市で連携し研修を進めてきた。

鹿沼市は「ともに学び続け心豊かに生きる子どもの育成を目指す学校経営の推進」を、日光市は「仲間に学ぶ、仲間で磨く、新時代を創る校長の資質」をそれぞれテーマとして掲げ、研修を重ねてきた。

全体研修会としては、一月に、三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング㈱政策研究事業本部主席研究員の善積康子様による働き方改革についてのビデオ講演を予定している。

〔芳賀地区〕

本地区では、関ブロ群馬大会発表の提案領域について、研究主題を「信頼される学校の実現を目指した組織マネジメントの工夫」と定め、地区全体で研究を推進してきた。

全体研修は年三回実施しており、六月の第一回研修では、研究の方向性を確認した。九月の第二回研修は、緊急事態宣言下により中止されたため、提出された各校の様々な研究実践を研修部員が意見交換し、研究を進めてきた。二月の第三回研修では、研修部員による研究発表をもとに成果と課題を共有し、各校の次年度の実践に生かしていく。各校の研究実践は研究集録にまとめ、活用を図る予定である。

〔下都賀地区〕

本地区では、「未来を見つめながら学びに向かい学ぶ喜びを分かちあえる子どもの育成」を研究主題に、校長としての学校経営の在り方を中心に研究を進めてきた。

十一月には、文部科学省コミュニティスクールマイスターである鈴木廣志様（元小学校長）を講師に迎え「コミュニティスクール（ＣＳ）と学校経営～全国の実践例をもとに」という講話を拝聴した。鈴木様は、作年度末に退職するまで、精力的に地域との交流を実践された方である。

学校と地域が「熟議」によって「育てたい子ども像」を共有し、学校運営協議会を核として一緒にカリキュラムを創っていく過程こそが、「地域とともにある学校」にとって大切であることを確認した。

〔下野地区〕

本地区では、県の基本目標に準じて研究主題を設定し、今年度関東ブロック栃木大会での本市発表テーマ「校長のリーダーシップの下、教職員の資質・能力の向上を図る校内研修・体制の充実」を副題として研究を推進してきた。

六月には白鷗大教授（元県総合教育センター所長）金井正様をお招きし、「楽しい学校経営をしていきましょう」と題して、校長の指導性・組織マネジメントの在り方について、経験に基づく貴重なご講話をいただいた。年明け一月には小中校長会合同で講話による研修を行う予定である。

各校長による取組を共有し、また研究協議を通して、成果や課題を確認することができた。

〔小山地区〕

本地区では、二つの課題に焦点を当て、ＡＢの二班に分かれて研究を進めてきた。

Ａ班は「若手教職員を育

てる人材育成」を目指し、学校規模ごとの有効な手立てを検証し、教育環境を整える校長のリーダーシップについて考察している。また、Ｂ班は「地域と連携し教育力を生かす学校経営」について、地域全体で子どもたちの「生きる力」を育てるため、コミュニティ・スクールについて学校経営の中の位置付けや運営の仕方等を考察している。

他にも、七月には学校経営の実践発表、十月には小山市教育長の濱口隆晴様を招き講話をいただくなど、校長自身の資質の向上に努めている。

●●●●〔栃木地区〕●●●●

本地区では、研究主題を『ＧＩＧＡスクール構想』を生かした学校経営の展開』と設定し、四つの班に分かれて研究を進めている。

各校の教育課程における「ＧＩＧＡスクール構想」の位置づけ、教職員の意識を高め、共通理解を図るための取組の工夫、「資質・能力の三つの柱」を育てるタブレットの活用の実際等について、毎回各班二校が資料を準備して発表し、それについての質疑や協議を行っている。

「ＧＩＧＡスクール構想」を学校経営に生かし、どのように展開していくかを考える上での貴重な機会になっている。

●●●●〔塩谷地区〕●●●●

本地区では、本年度も地区の研究主題「自ら未来を拓き ともに生きる社会を創る子どもをはぐくむ 学校経営の推進」を受け、二市二町の校長会がそれぞれ研究主題を定め、月ごとに行われる校長会の際に研修を行ってきた。

さらに、七月には、昨年度は中止となった講演会を実施することができた。県総合教育センター所長の大島政春様をお招きし、講演をしていただいた。人間性を高める、感性を磨く、意欲を高める、教師にとって大切なこの三つのことを中心にお話いただいた。出席者全員が、感動を覚える講演会となった。

●●●●〔那須地区〕●●●●

本地区では、大田原市、那須町、那須塩原市の三市町でぞれぞれが課題を設定し、研究を推進してきた。今年は、三年間の研究の最終年度となり、総まとめを行った。

それは、本年度予定されていた関ブロ栃木大会で発表する予定であった。しかし、コロナ禍により、本地区と中央大会での発表となった。地区の発表では、三年間の研究の成果を伝え合い、学び多い機会となった。来年度より新たなテーマで研究を進めていく。

先が見えない不透明な今、校長間での情報共有と研究を通しての学びの継続により、皆で一致団結し、子どもたちのためにこの難局を乗り越えていきたい。

●●●●〔南那須地区〕●●●●

会員数が八名という県内最小規模の本地区校長会では、全員が研修の推進に携わっている。

今年度は、「ＧＩＧＡスクール構想実現に向けての取組と課題」を研究主題とし、新たな教育課題の対応に向けて内容の充実を図った。

各校における実践事例を持ち寄り、情報交換を行うとともに、ＧＩＧＡスクール構想の実現に向けた校長の在り方等について協議することで、スキルアップに努めている。

さらに、十一月には、県教育委員会総務課ＩＣＴ推進担当副主幹 石川佳広様をお招きし、県内の状況やデジタル教科書の動向等についての講話をいただいた。

●●●●〔佐野地区〕●●●●

今年度、本地区では「負担感を軽減し、新たな視点から学校力を高める学校経営の推進～働き方改革実践の視点から～」という研究主題を設定し、共通テーマについて四つの班に分かれてそれぞれに研究を進めた。市内の新型コロナウイルス感染拡大もあり、校長会議もリモートでの実施となるなど、途中から研修を進めていくことも難しい状況となってしまったが、数回の班別協議の実施により、各校で実践を進める上でヒントとなる情報を共有でき、回数は少なくとも意義深い研修となった。同一テーマなので重複する内容は多いが、紀要は班ごとのまとめをそのまま集める形とした。

●●●●〔足利地区〕●●●●

本地区では、県小学校長会活動目標である「自ら未来を創造し ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す学校経営の推進」を受けて、八つの具体目標をキーワードとして研修を進めてきた。本地区二十二の小学校を地区別三つの班に分け、各班で課題を設定し各校での実践や取組についての意見交換を中心に研修を行った。今年度の課題は、三つの班のうち、東北部班が「学校課題の充実と人材育成」について、南部班が「社会の変化に対応した教育の推進（タブレット端末の活用）」について、中西部班が「ＧＩＧＡスクール構想におけるタブレット端末の活用方法」というテーマについて研究を深めた。

自ら未来を創造し　ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す学校経営

地域とともに

下野市立祇園小学校　秋山　貴子

本校は、ＪＲ宇都宮線自治医科大学駅近くにあり、県外や大都市に通いやすく、駅周辺には、銀行、郵便局、商業施設、大小の公園に囲まれ、暮らしやすい良好な環境が整っています。学区内には自治医科大学附属病院があり、医療従事者が多数住居を構えています。

「笑顔いっぱいの学校」というスローガンのもと、地域とともにある学校づくりを実践しています。三百十七名の児童は、明るく、素直で活発に生活しています。知的好奇心や学習意欲も旺盛です。

本校の地域、保護者の皆様は他地域（県外）出身の方も多く、教育に対する考えが様々ですが、学校の教育活動に対して関心が高く、常に理解を示し、協力してくれます。伝統行事や地域行事が少ない地域ですが、子どものより良い成長を願い、ＰＴＡ活動やボランティア活動がとても活発です。

ＰＴＡ総会はもとより、ＰＴＡは自立した活動をしています。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、多くの活動やイベントが削減・縮小になっています。それでも、授業参観や運動会の受付（検温・消毒）、図書室の飾り付け、広報誌発行、市の図書館からの本の貸し出し、草取りボランティアの運営、持久走記録会や水泳の授業等への協力、新入児や転入児の通学班サポート、スクールガードへの連絡調整、飛沫防止パーテーションの組立、読み聞かせ等、多くの活動を実施しています。

また、お助け戦隊「ギオンジャー」等の学校支援ボランティアが、夏休みの図工作品の発送事務やミシン指導、放課後の教室消毒、見守り等の活動を行っています。

子どもたちの成長を願い、学校を支え、ポジティブな関わりをもち、尽力くださる保護者や地域。このつながりを大切に教職員一丸となり、より良い教育活動を実施しています。

PTA による飾りつけ

ボランティアによる発送事務

学び合い高め合う毛野っ子たち

足利市立毛野小学校　齋藤　勝

一　はじめに

本校は、足利市の東部、ハイキングコースで有名な大坊山を北に望む山合にある（平成十六年新校舎移転）。創立から伝わる「共励」（共に学び合い・喜び合い・励まし合おう）の精神のもと「毛野の子はやさしい心とたくましさ」を指標として五百名弱の素直な子どもたちが毎日元気に広い校舎で学んでいる。

二　特色ある教育活動

①児童会活動

縦割班を中心に毎月の遊び（わくわくタイム）や清掃等の活動を行っている。

自作のゲームや遊び等を班で楽しみながら全校児童で活動する「毛野っ子集会」は大人気である。

また、児童会で作成した毛野小のキャラクター「けのぴょん」は児童や地域の方にも親しまれている。

②学力向上

学校課題「学び合い高め合う児童の育成」～授業改善や指導力向上のための実践を通して～をテーマに研究を進めている。本校オリジナルの学習指導スタイル「毛野小スタンダード三版」の実践指導を理科教育において、令和元年度は県大会、令和二年度は関ブロ大会で発表した。令和三年度は各教科に広げて指導を行っている。

各教科の見方や考え方を教師がどのように捉え児童に働かせるのかを研修している。児童は、トリオやグループで学び合い、探究・解決していく力が伸びている。

三　おわりに

「指導や活動を楽しむ教師、学び合いを楽しむ子どもたち」休み時間、校庭に教師の姿を見ない日はない。

今日も教師と子どもたちの学び合う声が「毛野の里」に響き渡っている。

６年生理科：プログラミング

児童会：毛野っ子集会

特色ある学校づくり

やる気満々キラリ輝く乙女の子

小山市立乙女小学校　菊池　久美子

本校は、小山市の南に位置し思川と田んぼに囲まれた大変景色のよい農村地区のような学校です。

しかし、全校児童三百八十九名は、ＪＲ宇都宮線間々田駅周辺から通学しており、農業に携わる家庭の児童はほぼ在籍せず、東京近郊に通勤している家庭の児童も多い学区です。

本年度で創立四十七年目。「すべての教育活動は児童のためにある」を学校経営の基盤に据えて、児童一人一人が個性を生かし、将来にわたって自己実現を図れるよう、歴代の校長先生・諸先生方が教育に情熱を注いでくださいました。

その結果として現在、やる気満々キラリ輝く乙女小学校が存在しています。

私は、先輩方の思いを受け継ぎながら「安全・確かな学力・成長」この三つを保証するため、次の四点に力を入れています。

○生きる力を育む学習指導の着実な実践

授業と環境のユニバーサルデザイン化を継続しながら、一人一人を大切にするインクルーシブ教育の推進をする。

○安心安全な学校づくり・児童指導の充実

「和顔愛語」を基本に、駄目なものは駄目という「是々非々」の姿勢を全教職員で共通認識をし、同一歩調で児童指導にあたる。

○地域に信頼される学校づくり

地域に開かれた学校からさらに一歩踏みだし、「地域でどのように児童を育てるのか」「何を実現していくのか」という目標やビジョンを地域住民と共有する。地域と一緒に児童を育む「地域を含めたチーム乙女小」と捉え、コミュニティスクールを充実させる。

○教職員の資質・能力の向上

組織力を発揮したボトムアップ型研修会（すぐに役立つ・すぐに知りたい・今困っている）の実践をバックアップし、共に学び続ける教職員の育成に努める。

これらの実践を基盤とし、これからも児童・保護者・教職員・地域社会が一丸となり、すべてがキラリ輝くことを目指して、乙女小の教育を推進していきます。

校長講話
（交通安全）

地域授産施設との交流
（農作業の手伝い・桑の実摘み・桑の葉摘み・桑の葉茶作り）

勤労生産活動・地域ボランティア
（栽培したサツマイモで焼き芋）

中学生との交流を通じて

高根沢町立東小学校　小池　正夫

本校は、全児童九十四名の小規模校です。平成三十年八月、新校舎の完成に伴い、北高根沢中学校に隣接する現在の場所に移転しました。施設併設型の小学校としてスタートして早三年が経ちますが、児童は新しい校舎、校庭で元気一杯に伸び伸びと学校生活を送っています。

施設併設型のため、音楽室、図工室、家庭科室、体育館は中学校の施設を使用します。中学校への移動は、渡り廊下で繋がっており（通称虹の架け橋）雨でも濡れることなく行き来ができます。教室からは、中学校の駐輪場が見られ、その中には、本校の卒業生を見ることもできます。

平成三十年に移転してから、中学校と協力して様々な活動に取り組んでいます。今回は、その中から幾つか紹介させていただきます。

最初に行ったのは、合同避難訓練です。六年生が中学校の家庭科室を使用している最中に火災が発生したという設定で行いました。中学校の校長先生にお聞きしたところ、小学生が一緒ということで、これまで以上に立派な態度が見られたということでした。その後は、中学生による読み聞かせ（月に一回）生徒会主催による合同のふれあい活動（業間の時間を利用）あいさつ運動などを行いました。特に六年生は、中学生との触れ合いを通じ、中学校生活をイメージできたようで、スムーズに中学校生活に移行できています。令和二年度からは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、積極的な交流活動はできていませんが、今年度は、ダンス交流会を行いました。

児童が日々の生活の中に先生と自分たちの他に中学生もいる雰囲気で人との関わりを広げ、生活や学びを深め、豊かにすることが大切だと思います。そのために、学校は九年間を見通して、児童生徒の学びの実態を絶えず確認しながら、同じ方向で揃えられるところを明確にし、積み重ねていきたいと考えています。

ダンス交流会

中学生による読み聞かせ

話題の広場

本校の合言葉

野木町立南赤塚小学校
中田　隆

本校は、個性豊かで元気いっぱいの児童が四百二十四人在籍する中規模校である。休み時間は多くの児童が校庭で体を動かし、活気あふれる校庭の様子に、着任当初は大変驚いたのを覚えている。

そんな子どもたちに寄り添い導いているのが、四十七名の教職員である。子どもたちのことを本気で考え、真剣に向き合う姿は本当に素晴らしいと感じている。しかし、教育というのは難しいもので、こちらの想いがすべて子どもたちに届くものでは無く、いろいろなトラブルが起こるものである。そんな時、本校教職員の間では、「いつでも　どこでも　みんなで　みんなを」の合言葉のもと、連携を取りながら対応している。手前味噌ではあるが、そのチームワークは見事なものである。担任が一人で抱え込むことなく、みんなで何とかしようとする雰囲気が、笑い声の絶えない職員室になっているのだと思う。

「いつでも　どこでも
　　みんなで　みんなを」

本校の合言葉である。

朝の明るい挨拶から

那須町立東陽小学校
幡野　勇次

本校の朝は必ず、子どもたちの気持ちのよい挨拶から始まります。「あいさつ、自主学習、掃除の各ＭＶＰ」が毎月表彰され、その全てを受賞した児童は、賞賛されてトリプルＭＶＰのバッジをつけることになります。伸びやかな子どもたちの姿、そして保護者や地域の方が支えてくれる、温かな連携の様子が、本校の大きな特徴です。

那須町では、学校運営協議会が設置され、地域教育コーディネーターを中心に多くの学校応援隊の方が教育活動に協力してくれています。本校は開校六年目となりますが、旧小学校があった芦野、伊王野、美野沢地区で、ローテーションにより、四～六年生が縦割り班活動で自分たちのふるさとを再発見する学びを実施しています。また、福祉に関する学びや米作り、町探検など、学校応援隊の方の協力を得て、体験的な深い学びの実現に努めています。コロナ禍により希望参加とした奉仕作業においても、非常に多くの保護者の方に参加していただけました。

今後とも保護者、地域の方の温かい支えをいただきながら、本校の教育活動を推進していきます。

事務局だより

事務局長　吉成　隆志

三年間に渡り、多くの役員・実行委員の皆様と新型コロナウイルス感染症対策についても知恵を絞りながら準備を進めてきました「関ブロ栃木大会」ですが、全国的な感染拡大のために、残念ながら大会誌の発行をもって開催に代える誌上発表となりました。しかしながら、各都県の提案者の貴重な提案発表動画をＤＶＤに収録して大会誌とともに配付いたしました。提案者の研究成果を広く会員の皆様で共有し、今後の学校経営に生かしていただければ幸いです。

また、県内各地区からの要望や提案を総務部でまとめた提案事項について、新型コロナウイルスの感染防止策を講じながら、八月五日に県教委との教育懇談会を実施しました。その詳細については、十月の第三回理事研修会で報告し、また県小学校長会ホームページに掲載しましたので、ぜひご覧ください。

新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが全く立たない今、学校運営は非常に困難な状況ですが、こんな時こそ県小学校長会のネットワークを活用して会員の皆様で情報を共有し、乗り越えていければと考えています。

編集後記

新型コロナウイルス感染症との戦いが続いています。この事態に、学校は細心の注意をして感染防止に努め、柔軟に対策を練り、覚悟をもって決断してきました。集団生活と感染防止の両立をする事は大変難しいことでした。

そのような中、今年度から「栃木県教育振興基本計画二〇二五」が始まりました。「とちぎに愛情と誇りをもち未来を描き　ともに切り拓くことのできる　心豊かで　たくましい人を育てます」の基本理念をどう経営に生かすかが我々に期待されています。

制限の多い日々の学校経営に御苦労される中、本号に玉稿をお寄せいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

日光市立小林小学校
関　幸子